

調査実施日 平成30年6月20日(水)

生徒・保護者のみなさんへ

「平成30年度中学生チャレンジテスト(3年生)」を実施します。

大阪府教育委員会

調査の目的

- 大阪府教育委員会、市町村教育委員会及び学校が、生徒の学力の状況をつかむことで、教育の成果と課題を明らかにし、今後の教育にいかします。
- 生徒のみなさんが、自分の学習の到達状況を正しく知ることにより、自分の学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高めます。
- 大阪府教育委員会が、調査結果を使って、大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供します。

調査の内容

- 対 象：府内の市町村立中学校、義務教育学校後期課程、特別支援学校及び府立支援学校
中学部の第3学年の生徒
- 教 科：国語、社会、数学、理科、英語
(英語はリスニング問題を含む)
- 出題形式：選択式問題(選択肢から選んで答える問題)
短答式問題(短い語句や数値等で答える問題)
記述式問題(長い語句や文章等で答える問題)
- 調査時間：1教科あたり 45分

時間割

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
国語	社会	数学	理科	英語

※開始時刻は、各学校で決めます。

出題範囲等

国語

- ◆ 中学校2年生までに学習したすべての内容
※以下の題材を用いて、内容を正確に理解したり、適切に表現したりすることについて出題します。
《取り扱う題材》
○漢字の読み・書き、言葉の特徴やきまり、伝統的な言語文化に関すること
○文学的な文章、説明的な文章、古典など
○児童・生徒が作成したもの、その他図表等を含むさまざまな種類の資料
○書写（楷書と行書）に関すること

社会

- ◆ 地理的分野
地理の教科書のすべての内容
- ◆ 歴史的分野《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	歴史的分野	ページ
東京書籍	「第6章 1節 第一次世界大戦と日本」まで	P.5～P.211
教育出版	「第7章 2 大正デモクラシー」まで	P.6～P.211
帝国書院	「第6部 第2章 高まるデモクラシーの意識」まで	P.1～P.213
日本文教出版	「第5編 第2章 2 大正デモクラシーの時代」まで	P.6～P.221
育麟社	「第5章 第1節 第一次世界大戦前後の日本と世界」まで	P.6～P.221

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

数学

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容
- ◆ 3年生《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	1章 多項式	P.8～P.35
学校図書	1章 式の計算	P.12～P.45 ◆P.25,26（素因数分解）を除く
教育出版	1章 式の計算	P.9～P.44 ◆P.32～34（素因数分解）を除く
啓林館	1章 式の展開と因数分解	P.12～P.39 ◆P.22,23（素因数分解）を除く
数研出版	1章 式の計算	P.14～P.43 ◆P.38,39（素因数分解）を除く
日本文教出版	1章 式の展開と因数分解	P.10～P.45 ◆P.38,39（素因数分解）を除く

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

理科

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容

英語

- ◆ 1, 2年生の教科書のすべての内容
- ◆ 3年生《出題範囲を取り扱うページ》

発行者	単元名	ページ
東京書籍	Unit0, Unit1	P.4～P.15
開隆堂	Classroom English, PROGRAM1	P.6～P.15
学校図書	Pre-lesson, Lesson1	P.5～P.15
三省堂	Lesson1	P.6～P.10
教育出版	Lesson1	P.4～P.13

《取り扱う言語材料》

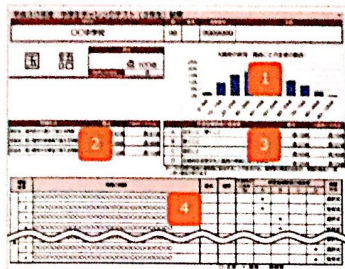
- 単文、重文及び複文
- 肯定及び否定の平叙文
- 肯定及び否定の命令文
- 疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞（can, do, may など）で始まるもの、or を含むもの及び疑問詞（how, what, when, where, which, who, whose, why）で始まるもの
- 文構造
 - [主語＋動詞]
 - [主語＋動詞＋補語]のうち、主語＋be 動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$ 、主語＋be 動詞以外の動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$
 - [主語＋動詞＋目的語]のうち、主語＋動詞＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \\ \text{動名詞} \\ \text{to 不定詞} \\ \text{that で始まる節} \end{array} \right\}$
 - [主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語]のうち、主語＋動詞＋間接目的語＋ $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$
 - There ＋ be 動詞＋～
- 代名詞
 - 人称、指示、疑問、数量を表すもの
- 動詞の時制など
 - 現在形、過去形、現在進行形、過去進行形及び助動詞などを用いた未来表現
- 形容詞及び副詞の比較変化
- to 不定詞
- 動名詞
- 受け身
- 音声に関するもの

※上記以外のページにある資料等（年表、演習、コラムなど）で、上記出題範囲の内容であるものも含まれます。

結果の提供について

◇ 結果は、生徒一人ひとりに個人票で提供されます。（平成30年9月中に学校から提供される予定です。）

生徒のみなさんに提供される個人票のイメージ



個人票には、以下の内容が記載されています

- 1 大阪府全体の得点ごとの生徒の割合
- 2 問題形式別のあなたの得点、大阪府の平均点
- 3 問題領域別のあなたの得点、大阪府の平均点
- 4 問題ごとのあなたの結果、大阪府の正答率等

個人票は、今後の学習に活用できます

- ◇ 自分の学習の得意なところや苦手なところがわかります。
- ◇ 間違った問題にもう一度取り組んだり、苦手分野の復習につなげたりすることができます。

日々の学習や苦手分野の復習に役立つ情報については、大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課のWebページに掲載していますので、ご活用ください。

「ワークブック」<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/kanicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

「かためしプリント」<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

大阪府公立高等学校入学者選抜調査書評定の府内統一ルール（3年生）について

① 府教育委員会は、第2学年の2学期末までの府内公立中学校の評定の状況と、1月に実施したチャレンジテストの結果を使って、中学3年生の「府全体の評定平均」を定めます。

② 各中学校は、中学3年生の6月に実施するチャレンジテストの自校の結果と府全体の平均を比べて、自校の「評定平均の範囲」を算出します。

【例】府全体の評定平均が3.35の場合の「評定平均の範囲」

	X中学校	Y中学校	府全体
中3チャレンジテストの平均点	57.0 点	63.0 点	60.0 点
中3チャレンジテストの対府比[A]	0.95	1.05	1.00
評定平均の目安[B]（「府全体の評定平均」×[A]）	3.19	3.53	3.36
評定平均の範囲（[B]－0.30～[B]＋0.30）	2.89～3.49	3.23～3.83	—

③ 各中学校は、自校の3年生全体の評定の平均と、②で求めた「評定平均の範囲」を比べ、適切な評価が行われているか検証します。「評定平均の範囲」に収まらない場合は、評価の方法の見直しを行った上で、評定をつけます。

※事業の一部（調査問題の発送・回収、採点・集計等）は、大阪府教育委員会が民間機関に委託して実施します。

調査実施日 平成30年6月20日（水）

生徒・保護者のみなさんへ

「平成30年度中学生チャレンジテスト（3年生）」を実施します。

大阪府教育委員会

調査の目的

- 大阪府教育委員会、市町村教育委員会及び学校が、生徒の学力の状況をつかむことで、教育の成果と課題を明らかにし、今後の教育にいかします。
- 生徒のみなさんが、自分の学習の到達状況を正しく知ることにより、自分の学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高めます。
- 大阪府教育委員会が、調査結果を使って、大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供します。

調査の内容

- 対 象：府内の市町村立中学校、義務教育学校後期課程、特別支援学校及び府立支援学校 中学部の第3学年の生徒
- 教 科：国語、社会、数学、理科、英語
（英語はリスニング問題を含む）
- 出題形式：選択式問題（選択肢から選んで答える問題）
短答式問題（短い語句や数値等で答える問題）
記述式問題（長い語句や文章等で答える問題）
- 調査時間：1教科あたり 45 分

時間割

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目
国語	社会	数学	理科	英語

※開始時刻は、各学校で決めます。